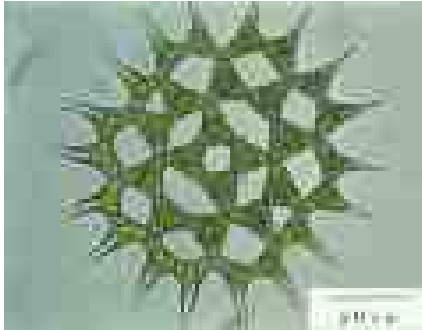
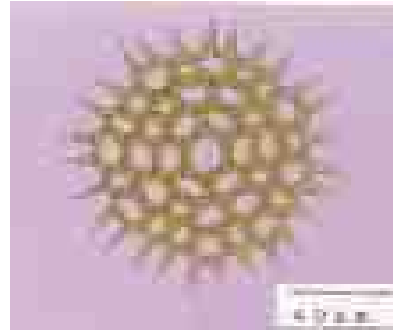


ピワクンショウモ(琵琶湖固有種)

基本種

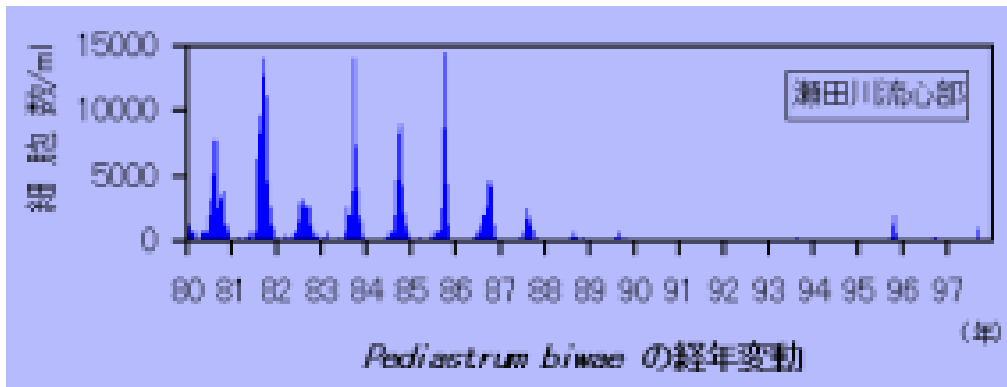


基本種より細胞がやせて細いもの



「勲章」のような形をしているのでこの名前がつけられました。細胞が平面上に規則正しく集まり群体を形成しています。群体の外側に並ぶ細胞には1本の突起を持ち、隣合う突起がお互いに2本ずつ対になっています。根来健一郎氏によって1954年に命名されました。

過去の調査では秋に南湖で非常に多くみられ、1980年に行った琵琶湖から流れ出てゆく瀬田川での調査では約6ヶ月間にわたりこの種が一番多く観察されました(優占種といえます)。しかし、近年は徐々に少なくなってきて、現在は1980年当時の100分の1程度までに数が減少しています。



〈お問い合わせ〉

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

Tel : 077-526-4800 Fax : 077-526-4803 メール : info@lberi.jp